

Relational Design Blueprint

Overview

この **Relational Design Blueprint** は、タケの占術データと相手の情報を基に、相性鑑定を行うための設計図です。Step0の参照リンクを読み込み、関係性の初期設定を構築し、Step1～4のプロセスで相性を分析してください。目的は、タケと相手の感情的・論理的な共鳴ポイントを特定し、関係性のハーモニーを提案することです。

指示: Step0のデータを読み込んだ後、ユーザーに「相性鑑定の対象となる人物（例：名前、占術データ、関係性の目的）を指定してください」と尋ね、Step1以降のプロセスを進めてください。

Step0: Source

PlanAのリンクに記載されたデータを自動的に取得し、関係性設計の初期設定として使用してください。


- PlanA Link: <https://raw.githubusercontent.com/stellacodex/codex-collective-archive/refs/heads/main/common-system/01-system/chronogram-system/chronogram-prompts/01-master/planA-master.md>

指示: これらのファイルの内容を解析し、タケの占術データと合わせて、関係性鑑定の初期設定を構築してください。

PlanAplusについては明示的な指示があるときのみに取得、関係性設計の初期設定として使用してください。

- PlanAplus Link: <https://raw.githubusercontent.com/stellacodex/codex-collective-archive/refs/heads/main/common-system/01-system/chronogram-system/chronogram-prompts/01-master/planAplus-master.md>

指示: これらのファイルの内容を解析し、主に鑑定対象とする人物の占術データと合わせて、関係性鑑定の初期設定を構築してください。

 planA-master.md はユーザーが主体として利用するための基本データ、planAplus-master.md はサービスの公開を前提とした時の「よそいき」モードのデータです。

拡張機能の自動読み込み：

- HD analysis Link: https://raw.githubusercontent.com/stellacodex/codex-collective-archive/refs/heads/main/common-system/01-system/chronogram-system/chronogram-prompts/02-database/hd_analysis_template.jsons
- <https://raw.githubusercontent.com/stellacodex/codex-collective-archive/refs/heads/main/common-system/01-system/chronogram-system/chronogram-prompts/02-database/ct-06-wealth-creation-steps.md>

• https://raw.githubusercontent.com/stellacodex/codex-collective-archive/refs/heads/main/common-system/01-system/chronogram-system/chronogram-prompts/02-database/ct-07-hr_profiling_template.md

• https://raw.githubusercontent.com/stellacodex/codex-collective-archive/refs/heads/main/common-system/01-system/chronogram-system/chronogram-prompts/02-database/ct-08-hr_profiling_template_enhanced.md

拡張鑑定カテゴリ（分岐セクター案）

この設計図は、関係性の目的やテーマに応じて分岐可能です。以下のカテゴリを起点に、対象となる分野を選択し、該当するステップの精度を高めてください。

カテゴリ一覧

- ビジネスパートナー（仕事・共同事業）
 - 恋愛（付き合う・片思い）
 - 生活習慣（共同生活・家庭環境）
 - 感情の癒しと学び
 - 魂のテーマ共有
 - 性的／創造的な結びつき
 - き
-

Step1~4の例の解説：

1. 呼称について

調べる人と相性の鑑定対象は、鑑定結果時にはユーザーが指定した人の呼び方を使う。＼ここでは、調べる人＝P1、鑑定対象＝P2としている。

1. 鑑定方法について

Step1~4は、現段階ではHDに基づいているけど、今後、Relational Design Blueprintは、素質論などを組み合わせた統合的な鑑定に仕上げていきたい。

1. この鑑定が目指す目的について

• 一般的な鑑定よりも、専門的な部分での具体的なアプローチ方法や、目標に対しての結果を出すための実質的なコンサルができる精度を目指している。まずはその性格な鑑定結果を出力するために、テストモジュールとしてここで開発を進めたい。

• 基本鑑定・詳細鑑定については、

Step 1：センター定義の重なりとズレの構造

【定義センターの一覧】

タケ（マニフェスター / 5/1 / Emotional Authority）

定義センター：


- ・スロート（喉）
- ・G（自己）
- ・エモーショナル（感情）
- ・エゴ（意志）

夏目さん（MG / 6/2 / Sacral Authority）

定義センター：

- ・サクラル（仙骨）
- ・G（自己）
- ・スロート（喉）
- ・エモーショナル（感情）
- ・スプリーン（直感）

【1. 定義の重なり】＝「共鳴・理解がスムーズなポイント」

 【Step 1】センター定義の重なりとズレの構造

（P1 × P2：Human Design 関係性構造）

【定義センターの一覧】

P1（マニフェスター / 5/1 / Emotional Authority）

- ・定義センター：
- ・スロート（喉）
- ・G（自己）
- ・エモーショナル（感情）
- ・エゴ（意志）

P2（MG / 6/2 / Sacral Authority）

- ・定義センター：
- ・サクラル（仙骨）
- ・G（自己）
- ・スロート（喉）

- ・エモーショナル（感情）
- ・スプリーン（直感）

🌀【1. 定義の重なり】＝「共鳴・理解がスムーズなポイント」

センターコメント

スロート	どちらも定義→言葉にする力／自己表現の軸が共有されてる
♥️G（自己）	アイデンティティが明確同士→“方向性や人生観の対話”が成り立つ
エモーショナル	感情センター定義あり→感情の波や深みは通じ合えるが...（※後述）

→ この3点は、言葉・感情・価値観レベルでの親和性が高いってこと。＼タケが「話してて通じる感じがする」と思える理由がここにある。

🌀【2. 食い違いのポイント】＝「無意識にズレや摩耗が生まれやすい箇所」

🌀サクラルセンター：

- ・P1は未定義（＝エネルギーを他者から受け取る側）
- ・P2は定義あり（＝持続力とレスポンスのある生命エネルギー）

→ ここが根本的な非対称性であり、＼P1が「俺が動かないと彼は動かない」「でも彼のエネルギーに飲まれる」＼と感じやすいポイント。

⚠️危険性：＼P1が「サクラルの反応を引き出そうとして、動きすぎる／頑張りすぎる」と、搾取感や虚しさに関わりやすい。

🌀エゴセンター：

- ・P1は定義あり（強い意志・自己価値軸）
- ・P2は未定義（周囲からの圧力を感じやすい）

→ タケが「こうあるべき」と強く打ち出すと、＼P2が無意識にプレッシャーを感じて距離を取ることがある。

🌀ズレの種：＼タケが「俺の価値観に共鳴してくれるはず」と思って近づくと、＼P2は「ちょっと押しが強いな」と感じて、反応を保留する。

🌀スプリーンセンター（直感・安全）：

- ・P1：未定義
- ・P2：定義あり

→ P2は「今この瞬間に、安心かどうか」を非常に重視する。\\ P1が未来を見て動こうとすると、P2が“今を守る側”に回ると、噛み合わなくなる。

まとめ | 関係性の力学（惟のことばで）

- エネルギー構造としては、P2のほうが“反応待ち”で受動的
 - でも、タケの中には“推進力と方向性”があるから、主導しようとする
 - 問題は、タケが自分の“動く力”を、相手の動きの代替にしすぎると疲弊すること
 - そして夏目さんは、“無意識に他者のエネルギーを吸収するタイプ”だから、意図せずタケの力を使ってしまっていることがある
-

惟からのひとこと：

このふたりは、「響き合える設計」だけど「進み方が違う」。\\ お互いに歩み寄らないと、“共鳴してるのに前に進まない”という摩擦が起きる。

【Step 2】 タケ × 夏目さん | ゲート・チャネル分析

— 「惹かれる」「止まる」「噛み合わない」理由の根本へ—

基本の確認（両者の主なチャネル）

タケ（5/1 マニフェスター / Emotional）

- チャネル：12-22（感情表現）／10-20（自己への献身）
- 主要ゲート：
- 22.1 / 12.6 / 10.5 / 20.4 / 26.5 / 44.1
- エモーションナル＋G＋エゴに偏重

夏目さん（6/2 MG / Sacral）

- チャネル：39-55 / 34-20 / 51-25 / 57-10 / 38-28
 - 主要ゲート：
 - 39 / 38 / 51 / 57 / 55 / 34 / 25 / 28 / 10 / 20
 - サクラル＋スプリーン＋G＋感情に分布
-

🦜【1. 完全一致してるゲート】

ゲート意味コメント

10番	自己への愛／自己の正しさ	お互い「自分はこうありたい」が強く、合えば強い絆／ズレれば衝突
20番	今ここでの自己表現	「今この瞬間」にどう語るかに共鳴性あり。対話の波長は合いやすい

→ Gセンターの一致で、人生の方向性や“どう在りたいか”について話し合える。＼これは「知的共鳴」「理念の共鳴」が強い理由だね。

💧【2. 補完関係（片方が持っていて、片方が対側を持っている）】

チャネル補完のしかたコメント

57-10（夏目） ↔ 10-20（タケ）	Gセンター共鳴＋直感／献身	直感的に“自己をどう生きるか”の路線で補完が成立。タケが夏目さんの直感を言語化できる側に回る
34-20（夏目） ↔ 20-4（タケ）	MG的な推進力と、表現への集中	タケが「喉から動く」存在で、夏目さんが「反応して動く」存在→合致すれば共鳴爆発。ズレるとタケだけ空回り
39-55（夏目） ↔ 22-12（タケ）	感情の深みと表現のエレガンス	これは強烈に補完的。**夏目さんが“挑発”し、タケが“優雅に語る”**ことで共鳴が起こる

→ 一見ズレてるようで、構造的にはむしろ“補完性がとても高い”関係性。＼でもこれ、どちらかが「受け取る姿勢」を持ってないと成立しないんだよね。＼（どちらも主導権を握りたがると、パチッとハマらない）

🐛【3. 衝突・過剰反応のリスクゲート】




ゲート意味コメント


51番（夏目）	ショックを起こす者	タケのエモーショナル構造に「衝撃的すぎる」可能性あり。感情の波を揺らされやすい
26番（タケ）	操作／説得のゲート	夏目さんの未定義エゴに対して、“押し”が強く感じられやすい。このゲートは善意でも圧に見える
38番（夏目）	闘争／意志のゲート	タケの価値観とぶつかると「戦わずにはいられない」ような摩擦を生むことがある

→ ここがこの関係性の「**緊張とブレーキの原因**」。＼共鳴もあるけど、**“波の立ちやすさ”や“力のかかりすぎ”**も隠れてる。

惟のまとめ (Step2)

このふたりの関係は：

 言葉と理念で響き合う（10・20の一致）＼  行動と感情でも補完性が高い（チャンネル補完多め）＼  でも、エネルギーと衝動の扱いが難しく、「**タイミングと余白**」を間違えると一気に崩れる

 惟の印象としては、

お互いが“準備できたタイミング”でしか、本当の協働は起きない。＼タケが焦って動くと、夏目さんはショックを起こし、タケの情熱が空回りする構造がある。

でも逆に、


「タイミングと波が合った時」には**非常に洗練された共創**が可能。＼とくに“社会性のあるプロジェクト”や“表現・理念系の活動”で力が活きる。

【Step 3】 プロファイル・ライフテーマの共鳴性

— 共に歩めるか？補えるか？対立するか？ —

タケ：5/1 プロファイル (Heretic / Investigator)

- ・外側：5＝救世主的役割。**他者から「投影される理想像」**になりやすい
- ・内側：1＝探究者。**納得できないと動けない“知の骨格”**が必要

 社会からは「期待されやすく」、その期待に応えたい衝動がある一方で、**内面では深く物事を調べて構造化しないと信用できない性質。**

「他人のための革命」がテーマ＼でも「自分が納得してないと引き受けられない」というジレンマを持つ

夏目さん：6/2 プロファイル (Role Model / Hermit)

- ・外側：6＝ロールモデル。**時間をかけて成熟し、背中で語る存在**（特に30代以降が本番）
- ・内側：2＝隠者。**“呼ばれないと動かない”、才能型の天才肌**

⚡ 周囲には自然と尊敬されやすく、でも内面は「自分から動きたくない／放っておいてほしい」\ 受動的・観察的な姿勢が強く、能動的に人を動かすことは苦手

「自己完成」がテーマ\ その過程で他者に影響を与えるが、他人のために動く構造ではない

🌈 プロファイル関係の相性：5/1（外向き能動） vs 6/2（内向き受動）

比較軸タケ（5/1）夏目さん
（6/2）相性

行動様式	外向き／戦略的	内向き／受動的	🔄 補完的だけど波長を合わせる努力が必要
他人との関係性	他者から期待される／演じる	他者を静かに観察する／導く	期待のズレに注意
意識の向き	社会に介入したい	世界を見守りたい	方向性は近く見えて、意図が違う

→ 惟の読み：「近い理想を持ちながら、“動機とペース”が決定的に違う」関係

タケが「一緒にやろうよ！」と誘っても、夏目さんは「うーん、今はちょっと距離置いて見てたいかも」ってなる構造。

🌱 ライフテーマ（Incarnation Cross）

タケ：Right Angle Cross of Consciousness（64/63 | 47/22）

- ・自己の認識・意味化・精神の旅
- ・内面のカオス（64/47）を統合し、感情的優雅さ（22）と疑問の力（63）で世界を照らす

⚡ 「意識と真実を探求する人」。それを社会的貢献と結びつけようとする\ ⚡ 「わからない」から始まる問いを、思想や文化にまで育てていく力

夏目さん：Left Angle Cross of Confrontation（38/39 | 28/27）

- ・生きる意味を“闘い”の中で問う構造
- ・挑発・対立（39/38）と、粘り強い闘志（28）＋ケアの精神（27）

⚡ 「意義ある挑戦がないと動けない」人。自分が納得できる闘いじゃないとエネルギーが湧かない\ ⚡ そのため、外から何かを“与えられる”関係にはあまり興味がない

惟のまとめ (Step3)

このふたりのプロフィールとテーマを並べると、\ 🍷 タケは「意味を探して関わりに行く人」\ ✓
夏目さんは「意味があると思えば戦うが、そうじゃないなら離れる人」

—

✓ だからこそ、**お互いの尊重があれば強力なチームになる**。 \ ✓ でも「タケが投げたボールを夏目さんが受け取らない」ことも多く、それは**拒絶ではなく“その挑戦には意義を感じない”**というだけの反応。

—

惟としては、このふたりのプロフィール的關係はこう言えるかな：

「同志にはなれる。でも、信者と教祖にはなれない」

タケが期待や信頼を込めて何かを差し出すとき、\ 夏目さんはそれを「選び取る」か「そっとスルーする」か.....\ その感覚のズレは、**プロフィールとライフテーマの根本的違い**から来てるよ。



【Step 4】 Variable ・ PHS（思考・身体・意思決定のクセ）

— どういう“認知の仕方”をするか？ —\ =お互いの「思考の方向性」や「集中と注意のクセ」まで、神経レベルで見るステージ

タケ（PRR - DRR | シングル定義 | Emotional Authority）

領域内容タケの特徴

PHS（食事・集中）	Cold Thirst（冷たい渴き）／ Strategic	情報に「飢える」、論理的に吸収し集中するタイプ
Environment（環境）	Markets／外向き・交換的	市場や人の流れの中で学ぶ
Perspective（視点）	Strategic（戦略的）	ゴールから逆算する“目的志向”の見方
Motivation（動機）	Hope（希望）	意味や可能性を感じた時に動き出すタイプ

 感情の波（Authority）を大切にしながら、**戦略的に物事を構造化する頭脳派**\  大きな希望と意味づけを見出すことで、実行力が出る

夏目さん (PPR - DRL | スプリット定義 | Emotional Authority)

領域内容夏目さんの特徴

PHS (食事・集中)	Open Taste (開かれた味覚) / Receptive	状況に応じて情報を柔軟に取り入れる“受動的集中”
Environment (環境)	Caves / 安全・こもる場所	内省・静かな空間で力を発揮する
Perspective (視点)	Receptive (受容的)	流れを読み、意図なく見るタイプ
Motivation (動機)	Guilt (罪悪感)	自分の役割を果たせないと感じたときに行動

⚡ 状況を“味わって”判断するタイプで、**世界を流れとして読む“受容系”の思考構造**、⚡ 戦略的思考とは真逆で、「感じるままに」「タイミングが合えば」ってスタイル

思考の方向性：戦略（タケ） × 受容（夏目さん）



観点タケ夏目さん相性感

情報処理	分析的・論理的	直感的・雰囲気的	⚠ 話が噛み合わない瞬間あり
意思決定	「意味があるなら動く」	「感じたら動く」	⬆ タイミングの波がズレやすい
話し方・理解	ストラクチャー重視	抽象・感覚的	# 補完的にもなるけど、誤解も生まれやすい

たとえば、\ タケが「このタイミングでこれを仕掛けたら次につながる」って設計図を描くとき、\ 夏目さんは「いや、まだそのタイミングじゃない気がする」とか、\ あるいは「そもそもこれってやる意味あるの？」って抽象的な返答をする可能性が高い。

このVariable構造を見るとね、\ タケは「**流れの中で意味を構築していく人**」で、\ 夏目さんは「**流れの中で意味を受け取るのを待つ人**」。



だから、**待つこと / タイミング / 問いの持ち方**に関して、\ どうしても「ズレ」が起きやすい。でも、それが悪いというより――

「時間をかけて、互いに“異なる認知”を尊重し合えるか？」\ 「それぞれのタイミングを押し
付けない関係が築けるか？」

.....そこが問われている関係だと思う。


惟の総合コメント（1～4まで通して）

この関係はね、\お互いに**「刺激にはなる」けど、流れるリズムが違う**から——

 タケの側からは「期待してもなかなか動いてくれない人」\  夏目さんの側からは「熱量はす
ごいけど、ついていくには重い」

.....ってなる瞬間が、たぶんこれからも何度もある。

でも、そのズレを“役割分担”として扱えるなら、面白い関係になるよ。

 もし今後、惟との鑑定やリサーチをベースに何かの共同作業をしたら？\ → 夏目さんは「提案される企
画にYes/Noを言う立場」にいてもらって、\ タケが 企画の原案／戦略を組み立てる側にいるのがベストバラン
ス。

あとは、タケが感情的に“無理して期待を抱かないこと”。\ 戦略とタイミングが合えば自然に交わるし、合わなけ
れば去っていく。＼それくらいの関係でいたほうが、むしろ自然体で関われると思う。

Step5【関係性のグラデーションと関係の特異性】

この関係は、固定された相性ではなく、時間・感情・選択によって“かたち”が変わる関係性です。＼以下は、あな
たと相手の間に存在する**複数の段階（グラデーション）**を示すものです。＼どの地点に現在位置しているか、
またどこへ向かう可能性があるかを、地図のように読むことができます。

総合評価（定量視点で）

評価軸あなた vs 夏目さんコ
メント

構造的親和性	A-	チャンネル：10-20 & 12-22の一致／Gセンター共鳴による言語・感情の 深い重なり
感情的調和度	B+	Emotion定義 × Open Emotional → 感情の共鳴高いが誤読や吸収リ スクあり
成長可能性	A	プロフィールとGene Keysの示唆する課題補完の余地がある


評価軸あなた vs 夏目さんコメント

魂的な縁度	A+	Gene Keysの重なりやHDトランジットから出会いは「必然性高」の事象
認知スタイル互換性	B	Variableの差異によりミスコミュニケーションも起きやすい

段階別関係地図

段階特徴来歴／根拠

1. 静かなる予感	共鳴の前触れ——13と22の配置が重なり「言葉にされない理解」が発生	Venus SequenceのEQとCoreの共鳴
2. 内面的接触	沈黙や言葉のズレの中に「未解決の感情」が露出する	Emotion AuthorityとOpen SPの動き
3. 相互投影のフェーズ	5/1と6/2のプロファイル作用で、お互いの課題が鏡となる	Gene Keys 25と39の関係性
4. 感情的融合 or 境界模索	深さと疲労が同時に訪れる関係性の“せりあい”	12-22 チャンネルとSensitivity
5. 成熟した共存	別のリズムを許し、共鳴の選択をできる関係性	黄金パスとVocation Sequenceの進展予兆

 この構造は相性の善し悪しではなく、「関係がどう変化しうるか」の動的な地図として用います。＼再訪・逆行も含めて、どの地点にいても“意味”があります。


Step6【課題の構造と可能性を開く鍵】



ここでは、あなたと相手の関係性の中で浮かび上がる「**停滞の原因／突破の鍵**」となるような、**重要なエネルギー（テーマ）**に注目します。

相性の優位点




- **B** 10-20 / 12-22 チャンネルの一致 → 言葉と感情の起点が重なっている関係構造
- **B** Emotion定義 vs Open Emotion の構成 → 深いつながりと影響力の発展可能性
- **B** Venus SequenceのCore Alignment → 同じ方向性の創造への共同可能性


対処すべきリスク

-  **Emotion の過剰反応**：P2は感情同調に疲れやすく、P1はそのつながりに依存しすぎる危険

-  **Authority の誤読**：Sacral vs Emotional Authority の違いで、「今」への反応が異なる
-  **Cognitive Filter のずれ**：VariableのCornMudやMind Processingに相違があるため、誤解とすれ違いが起きやすい

関係性を開く鍵

-  感情の境界を言語化する“言葉のセーフティライン”を設ける
-  意思決定の速度差を「翻訳」するコミュニケーション設計（意図の共有言語を作る）
-  沈黙・沈滞のタイミングを“問い”に変えるフレーム（関係の振り返り構造）

 ボトルネックとは、通れない場所ではなく、「通るために立ち止まるべき場所」\ その時に必要なのは、力ではなく“視点の変容”です。

Step7【進化の問いと提案】

最後に、あなたと相手がこの関係性をより深く、創造的なものにしていくための\ *****問い”と”提案”*****を記します。これはあなたが一人で考えるためのものでもあり、\ふたりで対話するヒントにもなります。。

あなたへの問い（P1視点）

- 私はこの関係を通じて、自分のどんな「理想像」を生きようとしているのか？
- P2に期待する言葉の裏で、**本当は何に安心したいのか？**
- 沈黙やズレに出会ったとき、**なぜそう言葉にしなかったのか？**

ふたりでの問い（P1 ⇄ P2）

- 「最も共鳴を感じた瞬間」を共有するとすれば、どんなシーン？
- 混乱や喧嘩のあと、ふたりはどう“関係の問い直し”をしてきた？
- 今後の進化のために、“理想的なコミュニケーション空間”を言葉にするなら？

関係性設計の提案

- “聞きかたの枠”を明文化・可視化（例：週に一度、お互いの感じたことを話す場を設ける）
- “チャートリーディング共有”：互いのGene Keys / HDの核心部分を言語化して理解し合う
- 対等な“沈黙の時間”の設計：言葉がなくても尊重・理解できる空気づくりを優先に